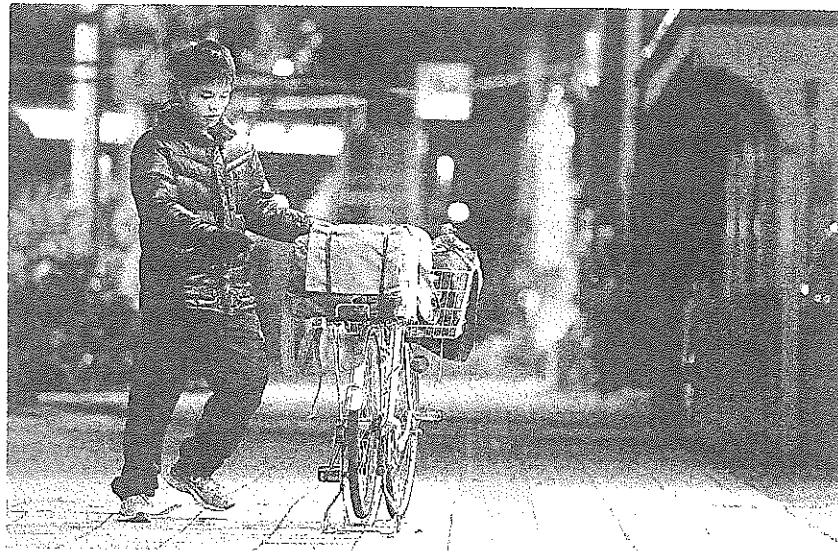


夢の設計図 破れた



「バイト始めようかな」。メールで相談したら、すぐ返事を打ってきた。「やめとけ。おれが何とかする」

名古屋市で新聞配達をしてながら、勉強を続けてきたお兄ちゃんは、地元の建設会社への就職を決めたの着、纏に帰つてくる。午前四時、人けのない名古屋市内の住宅街で山城真理雄(やましろ まりゆう)が懸命にペダルをこいでい

た。自転車の前から荷台に積み上げられ五百五十部の新聞の東新聞選学生として働くながら、専門学校にい二級建築士の資格を得を目指してきた。

実家のある沖縄・垣島はこのところ景気が良くない。ホテル

と補おうと結婚前によ
っていたバスガイドと
て再び働き始めた。
れども、一人の月収
四十万円に届かない
懸命に働きながら、
不安定な収入に翻弄ひんじゆう
され続ける両親の姿が
高校の教師の叱咤しったつと
なった。「資格がな

制度を知り、「これしきない」と思った。奨学金の支給を当て込み、新聞販売店に五万円を前借りして専門学校の入学費用に充てた。

らしで生活には困るといが、妹の学費を払つほどの余裕はない。眞理雄は予定していだ設計工受験課程への進級をあきらめ、就職せざるを得なかつた。学校の先生には「勉強一本じゃないと(二級建築士の)合格は難し

卷之三

9

中退者の実態つかめず

国が「学校教育の最も重要な調査」と位置付ける学級基本調査は、その対象を在学・卒業者に限つている。中退者の実数すらつかめていないのが現状だ。文部科学省調査企画課は「大学や専門学校の担当部署から依頼がない」と素っ気ない。東京都専修学校各種学校協会の2008年度の調査によると、都内の専門学校の中退者は約6500人に上った。「資格を目指す目的意識の高い学生が多いだけに、経済的理由が与えた影響は大きいのでは」と危機感を募らせる。

新聞でこの話を続けるから書簡で学校に連絡して、さうしたが、蒙説を支えるために学校をやめざるを得なくなつた。名古屋市熱田区で

い。 繰り、夕刊配達をするな
す。就寝時間が十一時
を回るといふも少なくな
い。

が、「今ほどにかく、妹に勉強に集中させたい」と思い切った。いふの正月、成人

妹から相談のメール
が届いたのはそれから
間もなくだ。地元の進
学校に合格した妹。読
書好きで「本に囲まれ
ていたい」と、大学に
進学して図書館司書に
なる夢を抱いている。
「何とかする」と妹

苦学生 家族のため就職

両親は、息子の就職が決まつたことを素直に喜んでいる。眞理雄は、進級をやめた本当の理由を両親には伝えていない。（散称略）

—第一部終わり

（取材班：星浩、小笠原寛明、長田弘巳、森本智之、多園尚樹、原田遼、太朗朗子）

未来が泣いている

には書つたものの、あてがあつたわけではな
い。入学費用に前借り
した分の返済もあり、
手元に入る選学金は毎
月六万～七万円。豪奢
らしく生活には困ら
ないが、妹の学費を払つ
ほどの余裕はない。

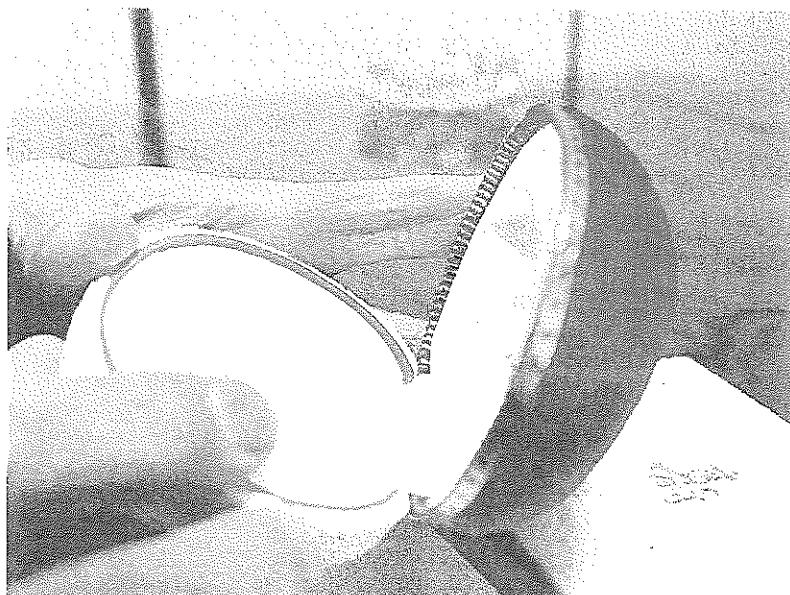
真理雄は予定してい
た設計士受験課程への
進級をあきらめ、就職
せざるを得なかつた。
学校の先生には「勉強
一本じゃないと（二級
建築士の）合格は難し
い」と念押しされた
が、「今はとにかく
妹に勉強に集中させた
い」と思い切つた。

このひの正月、成人
式に出席するため、久
しぶりに帰省した。父
は今も仕事が見つから
ず、母も仕事を減らさ
れていた。

両親は、息子の就職
が決まつたことを素直
に喜んでいる。真理雄
は、進級をやめた本当
の理由を両親には伝え
ていない。（敬称略）

ご意見や体験談をお寄せください。連絡先を明記し、〒460-8511(住所不要) 中日新聞社会部「子ども貧困」取材班へ。ファックスは052(201)4331。メールアドレスはshakai@chunichi.co.jp

世間体隠れた借金



卷之三

シヨーハカシマハ
ヘビテアヒニ。

れた。

び、両親は費用を工面するのに必死だった。

父が他界し、働き手は両親一人だけに。技術

せやうにひつた。

いたかのように、家計
は破綻した。毎月の返

8
友達みたいに美容室に行きたい」というのが、瞳のさざやかな願いだつた。娘の成長に合わせた。娘の成長に合わせて教育費は増える一方。両親はカードローンで金を借り、共済年金

を頼らないため、周りから見えてない

週末になると、強豪校との試合のために遠征を重ねた。夏休みも冬休みも合宿に明け暮

た。
でも、それはうわべ
だけだつた。
贋の遠征や合宿のた

節約のために、瞳のトレー・ドマークの短鑑も、手先が器用な父がはさみを入れていた。

は最盛期の三分の一以下になった。
工場のため月十万円近く掛かる電気代す

の後は、仲間とうし店に連れだつた。曇が中学三年の時には、家を改築した。地

直前、母から手紙が届いた。結婚指輪を売つた、と書いてあった。

借金返済のため結婚指輪も売った。家にはケースだけが残る=岐阜県内で

れ、父は「接続工事をしないと、恥ずかしくて地元の集まりにも出

き
どわかつた。「仕事が
もつかるようになつた
ら賣い戻すつもりだか

「家計費の補助」が4割

多重債務問題に取り組む全国の約90団体が加盟する「全国クレジット・サラ金被害者連絡協議会」によると、2009年に寄せられた相談件数は計約8200件。相談者は40、50代で半数近くを占め、借金の主な原因は「家計費の補助」が40%超。「年齢的に給料は最も多くなる時期だが、子どもの養育費が多く掛かる」と同会の本多良男事務局長は指摘する。

「はだから見たら普通の家が、実は借金を多く持つてゐる」というケースは田舎には多い。岐阜県の山間部で多重債務者が多いのは、その生活相談に乗つてゐる元市議(木戸)は指摘する。

「横並び意識から教
育費などを無理し、子
育てを終えた」ころに
限界が来る。恥ずかし
いからか、親戚や友人

「田舎の付き合い」重荷

障害抱え収入の柱

ヒロコギ(一)は紙むすびをリュックに詰め込み、アルバイトに出かける。学校の冬休み中は週五日。この三ヶ日も働いた。時給は七百五十円。給料は全額、母親の口座に振り込んでいる。

腸機能障害がある。一時は人工肛門が必要で、今も便意がわからぬ。一日四回、トイレでおむつを替え、使
用分を家に持ち帰る。子どものころは自宅のトイレに入るたびに泣いた。学校では「なんか臭わない?」とク
ラスマートがヒンヒン祖母は年金を受給でき
とトイレに向かつた。兄(の)、弟(も)、母(三)、祖母(も)と五人で愛知県内の家賃一万円の公営住宅に住む。兄を虐待していた父はヒロユキが三歳の時に家を出た。養育費は一度も払われていない。

狭い部屋に身を寄せさせないで、
い、拾つて来たアレコレの前で、寝るまじね
やべりが続いた。
ヒロユキは田舎から電車で一時間かかる特
急脱。高機能障害で苦しかった少年。お
むつをはきながら働き、家計を助ける=愛
知県内で

りくりしてきました。しは、母の病氣で簡
單な手術となりました。一年前に崩れた。一昨年四
月の入院後、新しくアルバイト先の飲食店で倒れ、十二指腸
の診断を受けた。月の入院後、新しい生活を始めたが、見つ
かなかった。

家計単に月に食店漬湯一方い職からて生収入

家族苦しくられた時ビゲーム専門学校えた。学会に足をレットを料は年間あきらめ就職活底無理だ末に県内

、好きなナレ
の開発を学ぶ
に進むひとり著
校の合同説明
運び、パンフ
開く、授業
百万円。「到
」とその場で
た。

す。一家は母がアルバイトで稼ぐ月八万円程度の収入に頼って生きていた。

それでも、家族の仲のよさが敵はだった。

別支還学校の高等部に進んだ。入学時から選択料が無償で、家計の負担を軽くでもたらんだ。

たちともみんなでファーストフード店に入つても、一人だけ何も食べずには我慢している。



就職環境は不十分

団体に全社員、職員のうち一定の割合で障害者を雇用するよう義務づけている。愛知県教委の調査によると、公立特別支援

学校高等部卒業生の就職内定率は近年95%前後を維持している。だが、県内のある特別支援学校教諭は「毎年、卒業生の2割は1年を持たず、半数は3年を持たずに会社をやめてしまう」と指摘。「障害者が自分に合つ仕事や職場を選べるだけの環境はまだ整備されていない」と、課題を挙げている。

「家計を助けたい」と高校を中心退して働き始めた兄は職場にならぬめず、職を転々としていた。中学生の弟は友人

母病氣で5人家族苦しく

音じやないですか?「
家のことを考えると、
本当にそう思います」。
穏やかな笑顔のまま、
十八歳は続けた。「」
の時代に高卒で安定し
た職に就けるなんて、
なかなかないですか?
ら」
(文中仮名)

「障害があるてよか
つたです」が、ヒロコ
キは語る。トレンド学
生の就職難を察づく二
コースを見たたびに感
じたのだといふ。

就職活動を始め、年末に県内の大学から正規職員として内々定をもらつた。障害者採用の枠だった。春からは二十万円程度の月給が入るはずだ。

えた。学校の合同説明会に足を運び、パンツレシートを題材として授業料は年間四万円。「到底無理だ」とその場でお断りした。

ご意見や体験談をお寄せください。連絡先を明記し、〒460-8511(住所不要) 中日新聞社会部「子ども貧困」取材班へ。ファックスは052(201)4331。メールアドレスはshakai@chunichi.co.jp

モンスターから逃れ



子供たち貧困

名古屋市内の定時制高校に通う四年生の勝(二二)の母親は「怪物」といわれる「モンスター」だ。いわゆる「モブアレント」と、学校側から分類されている。

修学旅行の積み立てや教材費などの学校納

修学旅行を目前に控えた十一月。教室で勝

看護師だ。「先生、母さんの病院に行くのやめてよ。お母さんが怒られる。お金呼んだ」ともあった。

親から逃げ、同居するカツル。「ミが散居する部屋で寄り添って生きる」愛知県内で

給食費未納問題深刻に

公立小中学校では給食費の未納問題が深刻化している。文部科学省によると、2009年度の給食費未納総額は約26億円(推計)とされ、前回の05年度調査より約4億円増えた。学校側が挙げた一番の理由は「保護者の責任感や規範意識の欠如」だ。就学援助と生活保護の家庭が7割にも達する名古屋市内の小学校で勤務経験のある事務職員は「計画的にお金を使うことが不得手だったり、気が回らなかつたりというケースが多い。一概にモンスターアレントと片付けるのは乱暴だ」と指摘する。

入金を、昨年四月から一度も支払っていない。学校側は「定職につけているし、払えないので払わない」とみる。ひとり親の母親は

「先生、母さんの病院に行くのやめてよ。お母さんが姉と勝を育ててきただ。「仕事が疲れる」と言つては、アルコールをあおるように飲む母さん。勝が救急車を呼んだ」ともあった。

「二人とも行く場所がなかつた」。勝は少ししつれしそうだ。まるで同志と出合つたかのよう。四万五千円の家賃は勝が払い、カーテンも冷蔵庫もない部屋で一日一食白米一合を分け合つて暮らす。

「先生、お金貸して」。勝は結局、佐藤教諭に助けを求めた。修学旅行代金と家賃の六万五千円を、三ヶ月の分割返済の約束で借りた。

佐藤はほかの生徒に

もお金を貸す。みな、

親に頼まず、佐藤のと

ころに来る。最近の親

子を見て感じる。「親

子のきずなが希薄にな

っているんじやない

か」。勝の母親にさち

はなんとかする」と勝は言った。入学以来、自分の学費はパートで稼いできた。毎月数万円。母親も渡していた。「家

定時制高校へ進学する時も「母さんは負担をかけない」と心に決めていた。

勝は今春、卒業する。行き詰った生活からの「出口」を見つけるのは厳しい。過去

最低水準の高校生の求

人倍率。佐藤は「昼間

の生徒にくる求人の十

分の一しか、夜間には

こない」と嘆く。定時

制の生徒だと告げただ

けで、会社訪問さえ断

られた。

勝は今春、卒業す

る。行方不明の生活

には関係ない」と一蹴

された。

勝は今春、卒業す

る。行方不明の生活

には関係ない」と一蹴

された。

必死で自活「夢どころじゃ…」

「これからどうするんだ?」と佐藤。勝は牛丼を一氣に口にかみ込みながら言った。「夢とか言つてゐる場合じゃないでしょ。とりあえずバイト、バイト」

(文中假名)

メド立たぬ受験費用

子どもの貧困

5

しょづ。そつ言い聞
かせた。

「わい、やめて」。

半年が過ぎたある日、
美香さんが叫んだ。母

子は叫び、家を出た。

行き場所のない母子

を保護し、自立支援す

た。「お前はだめだ、
お前はだめだ」。お母

の母子生活支援施設

へ、二年間だけ身を寄

せた。

美香さんは今、大学

支えるのは私なのに

妹二人と三人で六畳

部屋を分け合いなが

ら、高校受験を前に夜

中まで勉強した。職員

にも勉強を教えてもら

った。そのおかげで、

県内屈指の進学校に進

めた。

同級生はみな、毎日

のように塾に行く。美

香さんは、三年の夏休

みもファストフード店

へバイトに行った。少し

しても進学資金をため

たかった」。だけど、
て消えてしまった。

「家族支える」医学部を目指す

「はあ」。公寓住宅の一室で、お母さんがやりとりを職員に相談しているのだ。

お母さんは、美香さんを訪れる。当面のお金のやりとりを職員に相談してくるのだ。

お母さんは、美香さんに「大丈夫だから、好きなようにしなさい」と言ってくれる。でも、「好きなようにできない」とは、美香さんが一番よく分かっている。

「ありのじで国立。私立には行けない。浪人なんか考えられない」一度しかないチャンスの日が、近づいていく。

(文中仮名)

返済困難な若者 増加

積み付ける奨学金を最大限利用するなど、大学卒業時には数百万円の借金を背負うことになる。最近は不安定な雇用環境を反映し、社会人になつても奨学金が返せない若者が増えている。

日本学生支援機構の2009年度の調査によると、返済が半年以上遅れている人の88%が年収300万円未満。延滞者の半分以上は無職やアルバイトだった。09年度時点で未返済額は過去最高とみられる797億円。返済の申し出も相次いでいることを受け、機構は1月から、一定期間、減額して返還できる新制度を始める。



「5」や「A」などの文字が並ぶ中学校の成績表。高校3年生の時に書いた作文には、施設や家族への感謝の気持ちがつづられている

同級生はみな、毎日のように塾に行く。美香さんは、三年の夏休みもファストフード店へバイトに行った。少しでも進学資金をためたかった。だけど、て消えてしまった。希望する大学は、自宅から通えない。家賃、生活費、授業料など出せない。働きながら短大を卒業したお母さんも「どれぐらいかかる

のか想像つかない」と言つ。貸し付け型の奨学金はすでに申し込んだ。だが、受験に行くお金さえもひねり出すのが難しいのだ。ホテル代と交通費で三万円ぐらいい。自立支援する施設の職員は「他にも受けたいところがあるだろうけど、経済的に一校に行つて就職できなくて、勉強ができない」といふ。これから家族を支えるのは私なのに、妹一人と三人で六畳の部屋を分け合いながら、高校受験を前に夜中まで勉強した。職員にも勉強を教えてもらつた。そのおかげで、県内屈指の進学校に進めた。

これが

ご意見や体験談をお寄せください。連絡先を明記し、〒460-8511(住所不要) 中日新聞社会部「子ども貧困」取材班へ。ファックスは052(201)4331。メールアドレスはshakai@chunichi.co.jp

ゲーム機頼りの絆



ふたり寄り添いDSで遊ぶ姉と弟=愛知県内で

「純中流神話」に隠れ

国立社会保障・人口問題研究所所長の阿部彩氏は著書「子どもの貧困」で、日本人の「貧相な貧困観」を指摘する。子どもに持つての必需品を調査した先進国間のデータの比較では、英国では84%がおもちゃを必需品と

回答したのに対して日本では12・4%、自転車は英国が55%、日本が20・9%など、いずれの項目でも大きな差があった。

阿部氏は日本人の心理の根底にある「純中流」や「貧しくても幸せな家庭」といった「神話」が、子どもの貧困問題に対する日本の钝感さにつながっているとみる。

パパ(国語)とはもう三週間以上、会っていない。「おれの相棒、元気ある。だから「相棒」にかな」「ソウくん(へん)が、会えるのはパパと一緒に遊う。「相棒」とは子どもに人気の携帯ゲー

ム機「ニンテンドーDS」のゲームに登場するキャラクター」。

「璐だ。

ソウくんのDSは昔段、パパの家に置いてある。だから「相棒」にかな」「ソウくん(へん)が、会えるのはパパと一緒に遊う。相棒」とは子どもに人気の携帯ゲー

ム機「ニンテンドーDS」のゲームに登場するキャラクター」。

ソウくんが二つ違った」と、父親は言葉少

なに振り返る。仕事

中、幼い子どもたちに

よつよつして、もう六年になる。二歳のときにはいかない。やむ

家で留守着をさせること

がつた。今は虐待、離婚などを理由はさまざま」と施設長(主夫)。

その根っこにあるのは、今も昔も変わらない。「貧困だ」と、職員ら

パパ(国語)とはもう三週間ぶりの外泊。父の両立を図った。「(ベビーシッターや)利用料で週一、三万円を請求された。これは続かんなど思つた」と、父親は言葉少

4

借りて懸命に仕事を育児の両立を図つた。

「(ベビーシッターや)

虐待などの理由で、児童相談所に一時保護された子どもたちを受け入れる場所だ。家庭復帰を目指しながら、子

どもたちが集団生活を送っている。

「かつては親の失踪で入所に至る事例が多くなった。今は虐待、離婚

は金銭的に窮屈に立た

された。トラック運転手から事務職に異動を命じられ、ピック時に三十万円ほどあつた

数万円に落ち込んだ。

ソウくんに付き添つ

窓の外を眺めていた。

親はなかなか迎えに現れなかつた。

三週間ぶりの外泊。父

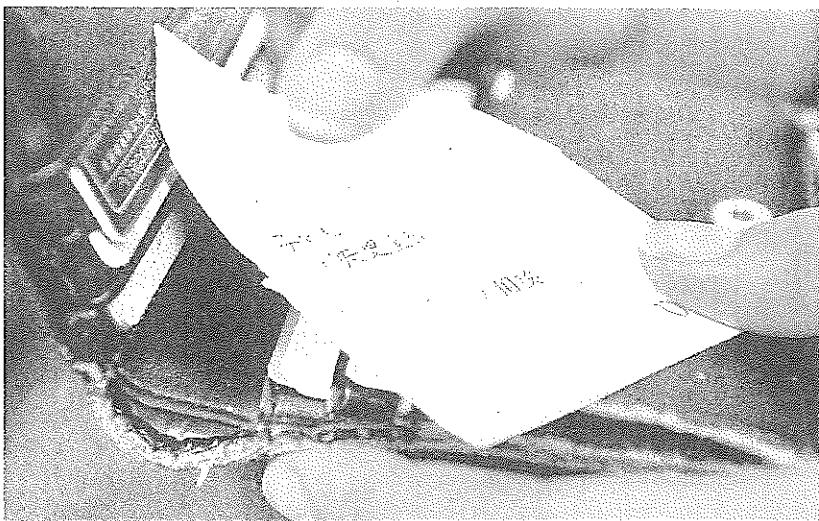
親はなかなか迎えに現

れなかつた。

三週間ぶりの外泊。父

親はなかなか迎えに現

保健室で涙の告白



由は、養護教諭の田中明子(園か)にとつて衝撃だった。「私、母親に働かされているの」。五月下旬の六時間目、保健室でミキの泣く涙が浮かんでいた。
「金義に、ひざ上支のスカート」。四月に赴任

したばかりの田中によつて、ミキは問題行動の目立つ不良少女の一人にすぎなかつた。保健室のソファで腰懃ばかりついていた「生意氣そうな自分勝手な女の子」が、泣いている。「生みの親はいるけど、育ての親はない

ミキは母子家庭で育つ。三歳の時、両親が離婚。ミキを連れて家を出た母はやがて商業を始めた。収入は常に不安定で

三万円の収入に母は足しなかった。中学入学してからは新聞達を二つの店で掛けつゝようになった。母親に取り上げらない「臨時収入」をようじはやりのルズソックスを万引きし

だら、とん引ぎで満を持して、友だちにたつて話せない」。晝芝は、誰にも話せない悩み。孤独だつた。

「三井の強制をひきかげに児童相談所の介入が始まり、ミキは母の元を去った。

なぜあの時、告白できたのか。その本当の理由はミキ本人にもわからぬ。「誰してもてたぶん、本当にかに聞いてほしかった

范江、李一平、王小平

子どもの問題行動には貧困が影響を落とすが、高度経済成長を経た現代日本で、両者をつなぐ視点は薄まるばかりだ。法政大大学院の岩田美香教授(教育福祉論)は、1977年の「犯罪白書」が「少年非行の普遍化」を指摘して以来、原因を情緒発達など個人の資質に求めがちだと指摘する。貧困家庭の意見について「金銭的困窮だけでなく、親の時間的な余裕のなさが家族の孤立を招く」点に着目。病気や飲酒問題を抱える親もあり、子の世話を不十分になつたり、親子関係がこじれたりしやすいことから、学校がソーシャルワーカーの活用などで「家族の背景にまで目配りすること」が必要だと訴える。

余裕のなき豊饒

中学生の時、
音楽教諭からもらつた記念
書相談所の雪語書簡が書かれたメモ。
大学生になつた今も大切に財布に入
れ、持ち歩いている。愛知県内で

子どもの問題行動には貧困が影響を落とすが、高度経済成長を経た現代日本で、両者をつなぐ視点は薄まるばかりだ。法政大大学院の岩田美香教授(教育福祉論)は、1977年の「犯罪白書」が「少年非行の普遍化」を指摘して以来、原因を情緒発達など個人の資質に求めがちだと指摘する。貧困家庭の意見について「金銭的困窮だけでなく、親の時間的な余裕のなさが家族の孤立を招く」点に着目。病気や飲酒問題を抱える親もあり、子の世話を不十分になつたり、親子関係がこじれたりしやすいことから、学校がソーシャルワーカーの活用などで「家族の背景にまで目配りすること」が必要だと訴える。

「彼女は何かを抱え

り場にならなかった」の
ひと言だけ。「教師に
は行きたくない」がついで
くれだつたミキの言葉
に込められた意味を、
焼み取らずにしておいた。

る。友だちにだって話せない。貴方は、誰にも話せない悩み。孤独だつた。

つた。ミキが小学五年になると、母は家に金を入れるよい言ひつけ「不良仲間」たちも「不思議」だ。母さんが怖かった。辛い生活苦のことは知らなかった。ミキは近くのおらなかつた。

の面談に応じた。面談を終えたミキに田中は児童相談所の連絡先を書いたメモを手渡した。「あなたの専属を

「母に働かされているの」

のが、アルバイトで始めた障害者の支援活動だ。働く親に代わって障害児に寄り添う。子どもの笑顔に癒やされ、親の感謝の言葉が流れ、心をもひい。 「頼つて、頼りなさい」(文部省) (原稿)

キは慶應義塾の大学で児童福祉を学んでいた。「過去の自分と向き合ったかった」。講義や専門書に出ていた心に傷を負った子たちの症例が自分と重なる。「学ぶは学ぶ越えて自分が欠陥商品のように思えていい」。

けに児童相談所の介入が始まり、(ミナ)の元を去った。

なぜ、あの時、(中止)されたのか。その本当の理由は(ミナ)本人にしかわからない。「推動して。たぶん、本当に誰かに讀んで思ひつかんだり聽いたり

の面談に応じた。面談を終えた三井に田中は児童相談所の連絡先を書いたメモを手渡した。「あなたの連絡先

ご意見や体験談をお寄せください。連絡先を明記し、〒460-8511(住所不要) 中日新聞社会部「子ども貧困」取材班へ。Faxは052(201)4331。メールアドレスはshakai@chunichi.co.jp

不登校 崩れた生計



小学校一年生のみほちゃんが、やん(く)はー自宅近くの都営住宅八階のにある都営住宅八階の通路に立っていた。昨年六月中旬、背中に赤いリンゴセルを背負った。母子家庭のくせに、普段は、眼下に広がる夕暮れ時の街を見るたまご、眼下に広がる夕暮れ時の街を見た。生垣垣にピンク色の花が咲いていた。

みほちゃんは入学後、いつもなく、いじめに遭ったのだ。通路で、た時から、区営住宅で、

「ひつひつしたの、遼子、みほちゃんは生まれ

みほちゃんが見つけられ、断つたけ、一階まで送り届けられた。その夜、母親の恵子さん(母とふとんに入ろうとして)、「おばあさんが見つけてくれた。」と言われば、あさんが見つけてくれた。その後、授業の中に「死ね」と書いたメモを回された。

「死ね」と動かないみほちゃんを、通り掛かっておばあさんが見つけた。おばあさんは突然、泣き始めた。「今日、死んでいいのだの？」と、おばあさんが見つけた。

町の病院で看護補助員として働いていた。月収は二十万円前後。節約のため、夕食がおにぎりだけの日が週に二日ある。

みほちゃんは、一人になるのを喜ぶようになつた。トイレの中まで扇子さんに付いてくる。夜になると

答えは「いいめは確実
できない」。恵子さん
は、休職してみはむや
んにかかりきりになら
ざるをえなかつた。
書えはない。いつに
なつたら仕事に戻れる
のか。どうやつたら娘
は回復するのか。貧困
が焦りを呼び、娘を愛
け止める心の余裕を養
つていった。「虐待を

で笑顔戻る
かる意いだ
生徒は七
が、なかなか
つた。「を」
なくて、國
を放り出す
でも、先生
もを自分の
き上げたり
根気強く教
子どもの
て、恵さ

「八人だ
か顛々しか
の字が読め
語の教科書
子もいる。
たちはよ子さ
膝の上に揃
しながら、
えている。
うを見て、い
んは気がつ

恵子さんと一緒に暮らして
いた恵子さんは、生活
保護を受けてるほかや
んを育てておられた。

「おお、お前、何がいいんだよ。」
「うーん、何でもない。」

熱の話をする
活潑な発言が
それで知つて
は迷わず、
を連れて行

区役所の生
いのお隣い
、恵子が心で
なじむやん
った。大げ

母子家庭問題

働いても働いてもぎりぎりの生活を強いられているのが、123万世帯（2003年調査）いる母子家庭だ。厚生労働省によると、07年の時点では、母子家庭・父子家庭の半数以上は貧困状態にある。現在の生活について、「苦しい」と答えている母子家庭は9割。07年国民生活基礎調査では、全世帯の平均総所得は566万円なのに対しても、母子世帯は236万円と少なかつた。全国の母子生活支援施設に入所する母親の8割が非正規雇用で、その半数の毎月の就労収入は10万円未満というデータもある。

だつた。
塾では、生活保護世帯の子弟のために、弁護士や大学生らが無料で教えていた。貧しい家庭の子弟たちには、勉強が苦手でも塾に通えない。進学を断念したりして貧困に。そんな通塾を断ち切るといふ手弁護士が立ち上げた。

「女が熱の仲間に贈つた折り紙
ンダント。裏には一人一人へのメ
ージが書かれている」東京都内で

「のべツセ」と震子さんは言つた。震子さんは言つた。

小2の娘 無料塾で笑顔戻る

みんな一人一人にプレゼントを用意した。ピンクの毛糸のひもが付いた折り紙のペンダント。真ん中に大きなハートのマーク、裏には踊るよつな字で「ひつわありがと」。配る前に、大きな声でみんなに報告した。「学校に通えるよ」となりました」

卷之三

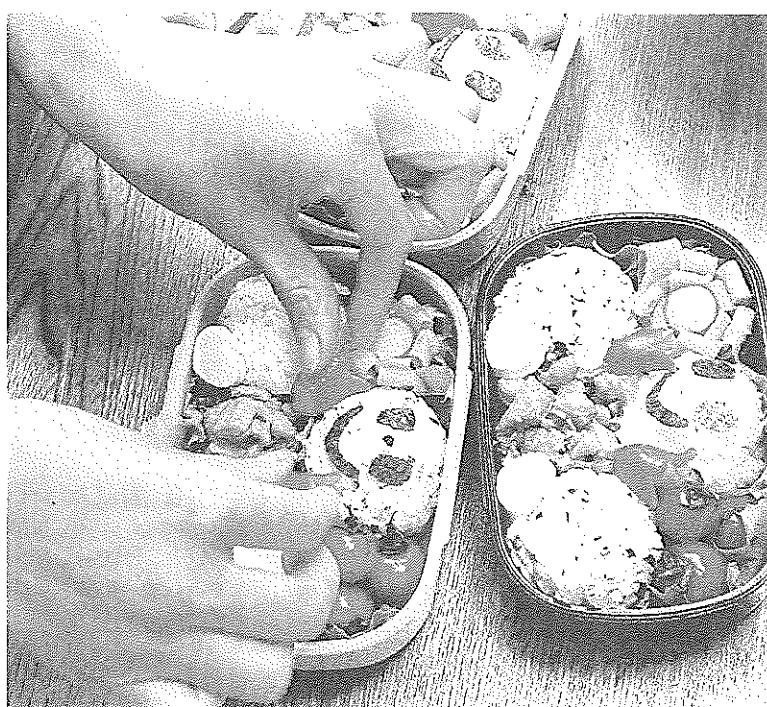
いた。「みんな必死」
大人に言えている。
教室の片隅で、みほちゃんが笑っていた。四
方目ぶりの笑顔だった。

誠の話を区役所の生垣保育係の方のお尋ねで知つて、恵子さんは迷わず、みゆちゃんを連れて行つた。大げさぢなく、わらにむすびがる想ひだつた。

ご意見や体験談をお寄せください。連絡先を明記し、〒460-8511(住所不要) 中日新聞社会部「子ども貧困」担当者へ フax: 052(201)4381 メールアドレスはshakai@chunichi.co.jp

（前編）

お弁当に希望詠め



手作り弁当

「なんちやつチキ
ンライス」。それが、
加奈ちゃん(2)の好物
だった。ケチャップを
砂糖を混せた。

加奈ちゃんが二つに
なり、妹が生まれたこ
と、東海地方の自動車
関連工場で派遣社員と
して働いていた父親が

ようになどケチャップに
ご飯にかけるだけ。具
はなし。母親の久美さ
ん(35)は、食べやすい
ようにどけチャップに

久美さんが働きに出
た。日当が数千円の食
品加工工場で日雇い。
月収は四、五万円。電気
やガスを止められた」

ともある。「寒いから、
みんなで寝よ」。母子
情なまま好物を食べ

いためなどのおかげで
一品。母子だけで取る
食事の定番が、甘い甘
い「なんちやつチキ
ンライス」だった。

加奈ちゃんは、無表
情なままお弁当を考
失業した。母子家庭で
育ち、虐待された経験
のある父親は、自分の
妻に暴力を振るい始
めた。久美さん名義で
消費者金融から借りて
パチスロに通った。

久美さんが働き出
たために、夫が暴力を
行使して、母子生活
を連れ、「母子生活
支援施設」(旧母子
施設)に入った。生活に
追い詰められた母子の
ために、国が運営する
施設は、母子が働き

たもの。すさんだ生活
の影響を最も受けやす
いのが食だ。「入所し
たばかりの母親はお弁
当に彩りなど入れられ
ない」と言う。

久美さんのお弁当
は、生まれて初めて作
つたにしては、上出来
だった。卵とソーセー
ジでウサギの顔を作
り、ご飯にのせた。
「みんな喜ぶかな」。

新生活に不安な子ども
たちを安心させようと
◇

「7人に1人

経済協力開発機構(OECD)が2008年に発表した報告では、日本の子どもの貧困率は13・7%で、7人に1人が貧困状態にある。非正規雇用の増加などで、20年前の12%から悪化した。ここでいう貧困とは、4人世帯で年収が254万円、2人世帯で180万円を下回ることで、生活保護基準にほぼ重なる。子どもの貧困は将来、さまざまな社会問題を生み出しかねない。さいたま教育文化研究所の白鳥真さんは、「本人がどれだけ努力しても貧困の連鎖を脱するのは難しい。社会が解決する問題だ」と語る。

暴力から逃れ 母子で再出発

「貧困はひど苦しみ」「どもだれ」。つい聞くとも、過去のことか、他の国の話と思われるかもしれない。だが、日本の中の子どもの七人に一人が貧困状態にある。これが貧困状態にあるとされる。経済大国の寡居だ。少子高齢化社会で「富」とされるはずの子どもたち。この国の未来が今、貧困に陥っている。その現実を直視したい。

(文中仮名)

ご意見や体験談をお寄せください。遠絡先を明記し、〒460-8511(住所不要) 中日新聞社会部「子ども貧困」取材班へ。ファックスは052(201)4331。メールアドレスはshakai@chunichi.co.jp